



中古流通シェアの国際比較(人口100万人あたり)

資料・日本：住宅・土地統計調査(2013年)、住宅着工統計(2013年)/アメリカ：Statistical Abstract of the U.S. 2014/イギリス：コミュニティ・地方政府省ウェブサイト/フランス：運輸■設備■観光・海洋省ウェブサイト

住宅が短命であることは、住宅市場の選択肢を乏しくすることにもつながります。実際に、日本の住宅市場では新築住宅の割合が高く、中古住宅の流通シェアは約15%と、欧米諸国に比べ著しく低い割合になっています。

国は、2006年に「住生活基本法」を制定・施行し、これまでの政策の転換を図りました。住宅について、「量の時代」から「質の時代」に変わったとして、建てては壊すこれまでのあり方から、価値ある住宅をつかって、長く大切に使う、すなわち「ストック型」の社会を目指そうというものです。

もったいないを住宅に

近年、私たちの生活のさまざまな局面で環境への配慮が大きな課題となっています。地球温暖化の危機がささやかれ、省資源・省エネルギー・省CO2を進めることが、地球市民として求められています。この延長に日本人の

「もったいない」という心・ことばが見つめ直されるようになりました。

かつての日本の民家の茅葺き屋根は、30～40年毎に葺き替えが行われていました。

世界遺産に登録された白川郷の合掌造りの家々では、今なお村人たちが総出で茅を葺きなおす様子が伝えられます。建築から100年以上経つ家々は歴史の深みを今に伝えます。昔の日本人は住まいについて、手入れして長く使っていく文化を持っていました。

この文化にもう一度光を当ててはどうでしょうか。今ある住宅を、リフォームによって長持ちさせることは決して難しいことではないのです。

